

第 2 回神奈川県住宅政策懇話会での議論要旨について

第 2 回 令和 5 年 1 月 26 日 (木) 10:00~12:00 WEB システムによる会議形式

主な議題・論点

○ 神奈川県高齢者居住安定確保計画の改定について

を主な議題として、ご意見をいただいた。

委員から頂いた主なご意見

○ 神奈川県高齢者居住安定確保計画の改定について

<民間賃貸住宅の状況>

- ・ 県全体の平均で議論するのではなく、民間賃貸住宅の家賃の状況によって新たなゾーニングをしながら計画を立てていく。そこに、公営住宅や公社公団を絡めていく、そういった組み立てが非常に大事である。
- ・ 入居制限と管理状況の関係で、管理状況の項目の中でサブリースをしている場合はどこに含まれているか。

<高齢者の民間賃貸住宅への入居に関する支援>

- ・ 拒否感を下げるためには、家賃補助よりも、不安やリスクを低減するような福祉関係者の顔の見える関係を構築することが有効。実際に市内の大家や不動産会社の拒否感が下がっているかをヒアリングで確認できるとよい。
- ・ 居住支援協議会や居住支援法人という住宅政策サイド以外にも、トータルにその領域を構成しているところにもう少し注目して、ソリューションのアプローチをしていくことが大事。

<改定の方向性>

- ・ 「健康」というキーワードを計画に入れたほうがよい。また、地域共生社会の実現に向けた施策を落とし込んでほしい。
- ・ 住まい単体だけでなく、地域との関わり合いを強化するような政策、施策を落とし込んでほしい。
- ・ 65 歳から 95 歳くらいまでを簡単に「高齢者」と分けられないところがある。高齢者と言われる長い期間での、住まいを変えざるを得ないところや看取りのところの不安が取れるとよい。そこが見通せると安心して暮らせるので、3つの基本認識に横串を指すような視点が入るとよい。
- ・ 公的支援だけではなく、民間や地域の力を活用し、高齢者が自立して住み続けられることを盛り込めるとよい。
- ・ 働くことの支援や、活躍の場所を作るという総合的なソフト面でのサポートも一体的に考えられるとよい。
- ・ どの施策に注力しているのかが分かると、県の姿勢が分かってよい。
- ・ 若い介護事業者や、福祉の担い手と一緒にまちづくりをする、といった視点がうまく入っていくととてもよい。

<改定の方向性(前ページの続き)>

- ・ 改定の方向性についてコンセプトを整理し、計画に入れていくときの組み直しの際に、柱をどのように表現するか知恵を絞って頂きたい。
- ・ 施策により地域的な濃淡があり、地域ごと（5地域くらい）に施策の重点がどこにあるのか表現してみるとよい。

<その他>

- ・ 資料4を懇話会限りではなく、何か有効活用できる方策を考えてほしい。神奈川県としてエリアや人の特性でマトリクスを作り、場合分けして見られるものを情報提供できるとよい。
- ・ 住宅改修（耐震・高齢・CO₂）が非常に重要で、墨田区では、基準を満たしたもののみでなく、基準を満たさなくてもレベルアップする部分があれば単費で補助金をつける等しており、県でもグラデーショナルに全体を底上げしていくことを目指す検討をしてほしい。
- ・ 貧困者向けに空き家を活用することはよいことだが、場合によっては貧困ビジネスに変わっていくため、監視の面をどうするのか、福祉部局と精査していただきたい。
- ・ できれば骨子をつくる時に、参考資料2のマイクロシミュレーションをすべての高齢者に当てはめ、ボリュームとして、単身高齢者で認知症を発症する人がどれくらいいるか、トータルの量とした時にどのくらいの量になるのか、作業は難しいが、このような計算までできれば素晴らしい。（事前レクでのご意見）